



「水上ビル」界隈の空き家・空き店舗ツアーの企画や「豊橋駅前大通地区まちなみデザイン会議」事務局長などを務める黒野氏。



「水上ビル」の魅力は？

ビルの成り立ちと、特異な構造だといいます。
養鰻組合を母体とする株式会社所有する「豊橋ビル」と、商店街組合に属する個人が所有するタテ割り3階(一部4階)建ての長屋形態の「大豊ビル」、1、2階を個人所有、3～5階が県営の賃貸住宅の「大手ビル」の異なる3つのビル群で、それぞれ三者三様の事情と成り立ちによって建設されたものであること。構造的には、長さ約800mにわたり水路に沿って建てられた、日本でも珍しい、すべてが水路上に建てられている「板状建築物群」であることです。

さらにもう一つ、日常の街の風景にアートを開放することによるアートイベントの「sebone*」も水上ビルを活気づけるものになっていると思います。

現状と将来への思いは？

経営者の高齢化と後継者不足により、いくつかの店舗は閉めざるをえない状況にあります。それはここに限ったことではないでしょう。大事なことは、空き店舗を借りやすくすることで、新しい人たちが新たにここでお店を始めてもらう環境をつくることだと思います。私は「20年は生き延びる」宣言をしました。これは鉄筋コンクリートの建物の物理的な面から考え、一つの区切りをすることにより、現在の経営者や住人の方々には、今のお店や生活をどの様にしめくめるかを意識してもらい、新たにお店を始めることを希望する人たちは、如何にお店を発展させるかと合わせ、この「水上ビル」を如何に生かせるのかを考えてもらう為のメッセージでもあります。しかし、個人的には「終わりの美学」を意識すると同時に、このビルがいつまでも元気でいることで、何らかの形でこのビルが、あるいはこの場所が生き続けるかもしれないという希望も持っています。

*水上ビルを「都市の背骨」と捉え、アートの力で人と街を元気にすることを目的とする都市型アートイベント。2004年に始まり、10年以上続いている。



高

齢化をむかえる経営者と後継ぎの無い現実。終わらざるをえない店への寂しさを漏らす声と、ここへの愛着から、精力的に盛り上げていこうとする新しい人たち。

農業用水の上に建っていることから、現行制度では、建て替えて新しく生まれ変わることは難しいのかもしれない。その時がいつなのかはわからないけれど、ビルも、ここで営まれてきた人々の生活も、いずれは消えてしまうのか。その事実と、長く伸びる通りの姿やここで出会った人たちの記憶を重ねて、少しでもだけ感傷的な気持ちにならずに。

しかし、ビルの下を流れる水路が、枯れることなく、新しい水運び続けるように、新しい空気は、この場所に新たな役割を創り出していくんだらう。その時、多くの人は再び、水上ビルとこの通りの魅力を知ることになるんだらうと思う。



「仕入れつてことは、間屋さんが多かったのかな」なんて考えていると、いかにも間屋さんらしい、箱売りの駄菓子屋が山のように置いてあるお店を発見。子供のころに戻ったようで、少しだけ気が躍る。「主人が「ここには多種な間屋さんが数多く軒を並べていたんです。今では少なくなっているけどね」と懐かしさをにじませるのを見て、煙草専門店のご主人が言っていた言葉を思い出した。

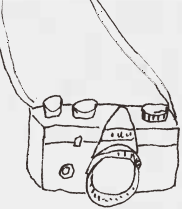
「駅に近いこともあって、遠州や南信方面など遠くからも大勢の人が来ていたよ。」今では人通りの少なくなったアーケードに、仕入業者の人たちが列をなし賑わう姿を想像してみる。



歩みを止めた。気がつくといつの間にガゼルのガラスは橙色になっていて、振り返ったら空はすでに夕暮れていた。昔ながらの人の温かさ、若い力でこの場所を盛り上げようとする人たちの想いを感じて、「今日のあたたかさは明日も続くんだらうな」で考えてみた。



水上ビル界隈には、他にはないような珍しい商店がいくつもあった。明るくきれいな外観の煙草専門店もそのひとつ。壁二面に並ぶ煙草の種類の多さ以上に興味を引いたのは、ケースに飾られているパイプ。際立つ木目と綺麗なフォルムは、大人の男のアイテムみたいでカッコよく見えた。「昔、この辺りのお店の前には、仕入れの人たちで行列が出来ていたんだよ」とご主人は話してくれた。



昔ながらの霧閉気がある商店と、今の空気を持ち込んだ若い人たちの店が混在する水上ビル界隈。遙か先まで延び続くこの通りの存在は、ノスタルジックな建築も相まって、か、何故か面白く、私の好奇心をくすぐった。「まちは、自分の足で歩いて知る」のが私のスタイル。早速、水上ビル界隈を散策することにした。

昔

すぐに目に入ってきたのは、馬の姿がデザインされた鉄製の格子と煉瓦の壁の喫茶店。中に入って天井を見上げると、きれいに磨かれたガラスのランプが吊るされていた。「このランプ、素敵だつてよく言われるのよ。そのレトロな佇まいは、たしかにとっても魅力的。話を聞いてみたら、やっぱり、ビルの完成当初から続く店なんだつて。

歩みを進めると、通りにおかれた個性的な看板に目が留まった。棚には、綺麗に整頓された「はちみつ」のビンと斗缶が並んでいる。味のあるラベルからはこの店の歴史を感じることがでできる。「実際に蜂も飼ってた頃もあったよ。」そう、ここぞと驚いたのもつかの間、「宝飯郡・現・豊川市」の方でね」とご主人。このビルの屋上でミツバチが飛びまわる様子と、巣箱に溜まった蜜を採取する姿を想像しかけたんだけど、すぐに消えちゃった。

昔ながらのお店が点在する中、最近では新しいお店もできつつある。「この建物のレトロな雰囲気が入って店を出したんです」と話すのは、おしゃれな家具を取り扱っている店の店主。ビンテージ家具とこの建物が違和感なくしっくりきている。クラフトビール専門店のオーナーは「今までのお店に飽きた人たちが、このビルに魅力を感じて集まって来てくれたらいいなと思う」と、ビルの魅力を語る。世界中を旅して巡った彼が言う、説得力も増して聞こえる。「もう2、3店舗水上ビルに面白い店ができたら、この街は変わるよ」と話すアパレルショップのオーナーもいたりして。この輪がもっと広がっていけばいいのに、なんて心の中で思った。

人が溢れかえていた「昔」を思い返す声も、「今」を嘆く声も、これからの「未来」を語る声も「水上ビル」という不思議な建築群が中心にいるんだよなあって思うところ。この場所は本当に面白いところなんじゃないかと思うようになった。

随所に見られる橋の名残の欄干。「これがあるからこそ水上ビルって思えるんだらうな」と、惹きつけられるようにシッターを押した。ビルが出来た以前の水路の面影を想像させ、「水路あつてのビル」の魅力を確認させられた。

水が流れる水路で子どもが遊ぶ姿や、当時の空気なのか、古の人たちが橋の上を行き交う様子が目に浮かんでくる。場所が担ってきた役割は、時代と共に移り、人と共に変わっていく。ただ、この場所を想う人の気持ちは、いつまでも経っても残り続ける。



水上ビルとその界隈

このお店の床の下に
水が流れてるって思うだけで
ワクワクしてくる。

「水上ビル」から何を想像する？って言われたら、流れる運河に沿って建ち並ぶ建築物のイメージがすぐに浮かんでくる。だけど、目の前にあるのは商店や飲食店などを連ねるノスタルジックなビルで、きつと誰もが「水はどこ？」で疑問に思うはず。名前の由来は、牟呂用水(新川)が流れるその上にビルが建つてからで、つまり連なるお店の真下には今でも水が流れていることになる。建築物としてはかなり興味深い状態だと思う。「水上ビル」というのは愛称で、正確には、線路側から順に「豊橋ビル」「大豊ビル」「大手ビル」の3つのビルからなる。

もともと早く建てられたのは、昭和三十九年に建設された「大豊ビル」でそのルーツは終戦直後の開市までさかのぼる。終戦後の焼け跡に、自然発生的にできた開市が旧狭間小学校の跡地(現名豊ビルの場所)に「大豊商店街」を名乗って移転。その後、豊橋の中心市街地再開発のなかで、防災・美観の観点から、しかも代替地も無かつたこともあり、やむなく暗渠化した農業用水(牟呂用水)の上に建てられた。その後、昭和三十九年から四十三年にかけて「豊橋ビル」「大手ビル」も順次建てられ、三階、五階建てのビルが、東西約八百メートルにもわたり連なる今の姿が出来上がった。

なんとも興味深い生立ちと名前をもつこのビルの魅力に、私は一番線路側の壁に大きく貼られた写真を見上げてみた。てべんにあつたはずの陽は少し傾きだし、ビルの壁面を照らすと同時に、私の右側から背中にかけても暖かくしていた。



TOYOHASHI
まちなかモノ語り MAP 水上ビル vol.01



水上ビル
オススメ店舗

通りごとに順次紹介していきます。
まちなかのグルメ、ファッション(衣服)のマップです。

1 お挽

◆0532-43-6995
◆豊橋市駅前大通1丁目109
◆定休無し
◆17:00~24:00 (LO 23:00ドリンクLO 23:30)

和風だしの「牛タンしゃぶしゃぶ」をはじめとした牛タンメニューと、新鮮な魚介を使った刺身や煮魚などの魚料理が自慢のお店です。

2 みかわ家

◆0532-53-3116
◆豊橋市駅前大通1丁目114
◆定休無し
◆金土曜 午前17:00~25:00(LO 02:00)
月~木曜 午前17:00~24:00(LO 02:30)

おすすめは、名物「とりトロホルモン」。「塩トロホルモン」。新鮮でお肉の肉を使った、鳥専門焼肉居酒屋です。

3 SEVEN STYLE

◆0532-54-1155
◆豊橋市駅前大通2丁目71
◆水・木曜日定休(祝日は営業)
◆平日 12:00~18:00
土・日・祝 11:00~18:00

北欧から直輸入したヴィンテージ家具を修理・修復して販売。また「カリモク60正規販売店」でもあり、展示は東海エリア最多を誇ります。

4 セレクトショップwondclo

◆0532-21-9991
◆豊橋市駅前大通2丁目71
◆水曜日定休
◆12:00~20:00

革製品や洋服、小物に至るまで、店主こだわりのセレクト。「愛知でここだけ」という奇抜なアイテムが多数揃っています。

5 シンノスケ・オー

◆0532-39-8863
◆豊橋市駅前大通3丁目118
◆月曜日定休
◆平日 15:00~24:00(LO 23:00)
土・日・祝 15:00~23:00(LO 22:00)

三河初のクラフトビール専門店。最大9種類の生ビールを、店主自ら作ったという空冷式サーバーで味わうことができます。

6 天野商店

◆0532-52-7945
◆豊橋市駅前大通3丁目118
◆日曜日定休
◆6:00~18:00

花火やおもちゃを数多く取り扱っている昔ながらの間屋。雑多な店内は、どこか懐かしさを感じる不思議なお店です。



豊橋駅前
周辺拡大図